

厚生労働行政推進調査事業費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）
分担研究報告書

成人女性を対象とした HPV ワクチン接種の関連因子についての web 調査（研究計画）

研究分担者	伊藤 一弥	保健医療経営大学 保健医療経営学部
研究協力者	村田 節子	第一薬科大学看護学部看護学科
研究協力者	石橋 元規	医療法人相生会 臨床研究・治験推進部
	中根 篤史	医療法人相生会 臨床研究・治験推進部
共同研究者	鞍谷 沙織	大阪市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学
共同研究者	小西 絢子	大阪市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学
共同研究者	笠松 彩音	大阪市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学
共同研究者	迎 恵美子	大阪市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学
共同研究者	吹田安佐詠	大阪市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学
共同研究者	松本 一寛	大阪市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学
研究協力者	前田 章子	大阪市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学
研究協力者	近藤 亨子	大阪市立大学大学院医学研究科 研究支援プラットフォーム生物統計部門
研究協力者	松浦 知香	大阪市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学
研究協力者	加瀬 哲男	大阪市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学
研究分担者	原 めぐみ	佐賀大学医学部社会医学講座予防医学分野
研究分担者	大藤さとこ	大阪市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学
研究分担者	福島 若葉	大阪市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学

研究要旨

厚生労働省による HPV ワクチンの積極的接種勧奨の2022年4月からの再開を受け、全国23万人を登録する調査会の調査パネルより抽出した20歳から24歳の女性1000人を対象に、2022年2月から3月に、HPV ワクチン接種の有無ならびに未接種者の今後の接種意向について、web 調査による横断研究を実施する。調査目的は、接種意向に関連する要因を検討することである。結果指標は接種の有無ならびに未接種者の今後の接種意向の有無とする。要因として、年齢、学歴、職業、所得、性交頻度、子宮頸がん・HPV ワクチン・子宮頸がん検診に関する知識、HPV ワクチン・子宮頸がんに関する情報源、近親者の子宮頸がん既往歴、子宮頸がん検診受診状況、医師・看護師の勧奨、費用負担、HPV ワクチンの安全性・有効性に関する意識（信頼感・忌避感）、ヘルスリテラシー、積極的接種勧奨再開の影響などを検討する。

A. 研究目的

日本では2013年の HPV ワクチンの定期接種導入後、接種後の多様な症状（現在では機能性身体症状として整理されている）の報告があったため、長らく積極的な接種勧奨が控えられた状態にあったが、2022年4月に接種勧奨が再開されることとなった。

そこで、今回、積極的接種勧奨が差し控えられた期間に定期接種の年齢であった、20歳から24歳の女性を対象に、接種の有無ならびに未接種者の今後の接種意向の有無に関連する要因を検討する目的か

ら、本調査を行うこととした。

B. 研究方法

研究デザイン

全国23万人を登録する調査会の調査パネルを用いた web 調査による横断研究

実施時期

2022年2月から3月

調査対象

20歳から24歳の女性 1000人程度

対象者数の設定根拠：先行研究*に基づき、HPV ワクチンを未接種の女性が、HPV に関する高い知識を有している割合を0.42、HPV ワクチン接種の、HPV に関する高い知識を有していることに対するオッズ比を2.05としたとき、有意水準 $0.00102 = 0.05/49$ (調査項目細目数)、検出力0.8で当該オッズ比を検出するための必要対象者数は538人であった。先行研究に限られること、web 調査であることによる不明データの発生やデータ欠損等を考慮し、例数を1000人程度とした。*Miyagi et al.; Int J Gynecol Cancer 2014; 24(7):1347-55.

情報収集

全国23万人を登録する調査会の調査パネルより抽出した20歳から24歳の女性1000人を対象に、2022年2月から3月に、web 調査による横断研究を実施する。

結果指標

HPV ワクチン接種の有無ならびに未接種者の今後の接種意向の有無

要因

接種の意向に関連する要因として以下のことなどを検討する。

- 年齢、学歴、職業、所得、性交頻度
- 子宮頸がん・HPV ワクチン・子宮頸がん検診に関する知識
- HPV ワクチン・子宮頸がんに関する情報源
- 調査対象者自身・近親者の子宮頸がん既往歴
- 子宮頸がん検診受診状況
- 医師・看護師からの勧奨
- 費用負担
- HPV ワクチンの安全性・有効性に関する意識 (信頼感・忌避・ヘルスリテラシー)
- 積極的接種勧奨再開の影響

調査項目の詳細は別途、資料として添付する。

(倫理面への配慮)

本研究は、保健医療経営大学の倫理審査委員会の承認を得た。

C. 研究発表 (発表雑誌名巻号・頁・発行年等も記入)

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

D. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし

参考文献

- Miyagi et al.; Web-based Recruiting for a Survey on Knowledge and Awareness of Cervical Cancer Prevention Among Young Women Living in Kanagawa Prefecture, Japan. Int J Gynecol Cancer 2014; 24(7):1347-55.
- 原めぐみ, 中野貴司, 石橋元規; 日本人の新型コロナワクチンに関する WEB 調査. 厚生労働行政推進調査事業補助金 (新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業) ワクチンの有効性・安全性と効果的適用に関する疫学研究 令和2年度 総括・分担研究報告書

添付資料：web 調査項目

日本では毎年、約 1.1 万人の女性が子宮頸がんになり、約 2,800 人の女性が亡くなっています。患者さんは 20 歳代から増え始めて、30 歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう人も、毎年、約 1,200 人います。日本では、小学校 6 年から高校 1 年相当（12 歳から 16 歳）の女子を対象に、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を防ぐワクチンの接種を提供しています。HPV の感染を防ぐことで、将来の子宮頸がんを予防できることも分かってきました。

イギリス、オーストラリアなどでは女子の約 8 割がワクチンを受けており、HPV 感染症は性感染症であることから、男子への接種も推奨されています。日本では 2013 年の HPV ワクチンの定期接種導入後、接種後の多様な症状※の報告があったため、長らく積極的な接種勧奨（接種を勧めること）が控えられた状態にありましたが、2022 年 4 月に接種勧奨が再開されることとなりました。

※現在では機能性身体症状として整理されています。

そこで、今回、20 歳～24 歳の女性を対象に、HPV ワクチン接種に対するお考えを明らかにする目的から、本調査を行うことにしました。

Q-1 あなたについておたずねします

1. 年齢はおいくつですか
満_____歳
2. 居住地域を教えてください
 東京都
 神奈川県
 埼玉県
 千葉県
 福岡県
 その他（ ）
3. あなたの最終学歴を教えてください
 中学
 高校
 高等専門学校
 短期大学
 大学
 大学院
 専門学校
4. あなたが生活を共にする世帯の年収を教えてください
 200 万未満
 200 万から 400 万未満
 400 万から 600 万未満
 600 万から 800 万未満
 800 万から 1000 万未満
 1000 万から 1200 万未満
 1200 万から 1500 万未満
 1500 万から 2000 万未満
 2000 万以上
 不明
5. あなたの職業を教えてください（非正規雇用も含めます）
 農林水産業
 製造業
 建設業
 運輸業
 卸売・小売業

- 金融・保険業
- 飲食・その他サービス業
- 教育・学習支援業（医療系以外の大学教員を含む）
- 医療・介護・福祉（研究職・大学教員を含む）
- 家事
- 学生（医療・介護・福祉）
- 学生（その他）
- 無職
- その他（ ）

Q-2 あなたのパートナーについておたずねします。

6. 特定のパートナー（婚姻関係など）はいらっしゃいますか？
- 有
 - 無

あなたに特定のパートナーがいらっしゃる場合はお答えください。

7. パートナーの最終学歴を教えてください
- 中学
 - 高校
 - 高等専門学校
 - 短期大学
 - 大学
 - 大学院
 - 専門学校
 - 不明
8. パートナーの職業を教えてください（非正規雇用も含めます）
- 農林水産業
 - 製造業
 - 建設業
 - 運輸業
 - 卸売・小売業
 - 金融・保険業
 - 飲食・その他サービス業
 - 教育・学習支援業（医療系以外の大学教員を含む）
 - 医療・介護・福祉（研究職・大学教員を含む）
 - 家事
 - 学生（医療・介護・福祉）
 - 学生（その他）
 - 無職
 - その他（ ）
 - 不明

Q-3 HPV は性感染症です。あなたの感染の機会を知るために性生活についておたずねします。

9. あなたはこれまでに何人の人と性交の経験がありますか？
- _____人くらい

Q-4 妊娠についておたずねします。

10. 妊娠のご経験はありますか？
- 有
 - 無

Q-5 子宮頸がんに関する知識についておたずねします。

※この調査以前のことをお答えください。

11. 子宮頸がんは子宮頸部へのHPV感染によって発生する、性感染症であることを、こ

の調査の前から知っていましたか？

- 知っていた
 知らなかった
12. 日本では、子宮頸がん患者が20歳代から増え始め、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう人がいることを、この調査の前から知っていましたか？
- 知っていた
 知らなかった

Q-6 HPV ワクチンに関する知識についておたずねします。

※この調査以前のことをお答えください。

13. 12歳～16歳の女性は定期接種といって公費で（自己負担なし）HPV ワクチンを接種できることを、この調査の前から知っていましたか？
- 知っていた
 知らなかった
14. 厚生労働省による HPV ワクチン接種に関する積極的な接種勧奨が、2022年4月から再開されることを、この調査の前から知っていましたか？
- 知っていた
 知らなかった

Q-7 子宮頸がん検診に関する知識についておたずねします。

※この調査以前のことをお答えください。

15. 定期的な検診（2年に1回）が必要であることを知っていましたか？
- 知っていた
 知らなかった
16. 20歳以上の方は公費で子宮頸がん検診を受けられることを知っていましたか？
- 知っていた
 知らなかった

Q-8 あなたが普段得ている子宮頸がん、HPV ワクチンの情報についておたずねします。

17. これまで、子宮頸がん、HPV ワクチンについてどこから情報を得てきましたか？
 （複数選んでいただいて構いません）
- 何も情報は得てこなかった
 厚生労働省や自治体のホームページ・広報など
 医師
 看護師
 新聞
 書籍あるいは雑誌
 テレビ・ラジオ
 ネットニュース
 SNS
 You Tube
 家族・友人・知人
 その他

Q-9 あなたの子宮頸がん検診受診状況ならびに受診意向についておたずねします。

18. あなたは子宮頸がん検診を定期的（2年に1回程度）に受けていますか？
- 定期的を受けている
 定期的に受けていない

Q-10 子宮頸がんについておたずねします。

19. これまでに子宮頸がんを診断されたことはありますか？
- 有

- 無
20. これまでに子宮頸がんと診断された方におたずねします。診断された年齢を教えてください。
満_____歳
- 覚えていない
21. 近親者や知り合いの方に子宮頸がんと診断された方はいらっしゃいますか？
- 有
- 無
- 知らない

Q-11 HPV ワクチン接種についておたずねします。

22. HPV ワクチンを接種できないアレルギー等の医学的な理由をお持ちですか？
- はい
- いいえ

いいえの方だけ 23, 24 の質問にお答えください。

23. HPV ワクチンを接種しましたか？
- 接種した
- 接種していない
24. HPV ワクチンを未接種の方にお尋ねします。今後 HPV ワクチンを接種する意向はありますか？
- ※厚生労働省による HPV ワクチン接種に関する積極的な接種勧奨の再開を知った後のお考えをお答えください。**
- 接種したい
- まだ決めかねている
- 接種したくない
- ※基本的には 17 歳以上の方への接種の費用は自己負担となります。**
なお、これまでの厚生労働省による積極的な接種勧奨の差し控えにより、定期接種を受けられなかった世代を対象に、定期接種の年齢を引き上げることが検討されており（キャッチアップ接種）、あなたがその対象になることも考えられます。
25. HPV ワクチン接種を医師あるいは看護師から勧められたことはありますか？
- 勧められた
- 勧められていない

Q-12 HPV ワクチンに関するあなたのお考えをおたずねします。以下の主張に同意できるか否かをお答えください。

26. HPV ワクチン接種を決めるときは、かかりつけ医の意見を尊重する。
- かなりそう思う
- そう思う
- どちらでもない
- そう思わない
- まったくそう思わない
27. HPV ワクチンは子宮頸がんの予防効果がある。
- かなりそう思う
- そう思う
- どちらでもない
- そう思わない
- まったくそう思わない
28. HPV ワクチンの重篤な副反応はまれにしか起こらず、HPV ワクチンは安全である。
- かなりそう思う
- そう思う
- どちらでもない

- そう思わない
 まったくそう思わない
29. 厚生労働省による HPV ワクチン接種に関する積極的勧奨の再開は、科学的根拠にもとづいて行われていると思われる。
 かなりそう思う
 そう思う
 どちらでもない
 そう思わない
 まったくそう思わない
30. 厚生労働省による HPV ワクチン接種に関する積極的勧奨の再開は、HPV ワクチンの子宮頸がんの予防効果について安心感を与える。
 かなりそう思う
 そう思う
 どちらでもない
 そう思わない
 まったくそう思わない
31. 厚生労働省による HPV ワクチン接種に関する積極的勧奨の再開は、HPV ワクチンの安全性について安心感を与える。
 かなりそう思う
 そう思う
 どちらでもない
 そう思わない
 まったくそう思わない
32. 子宮頸がんにかかる可能性は低いと思うので、ワクチン接種は必要ない。
 かなりそう思う
 そう思う
 どちらでもない
 そう思わない
 まったくそう思わない
33. HPV ワクチンを接種するのは面倒である
 かなりそう思う
 そう思う
 どちらでもない
 そう思わない
 まったくそう思わない
34. HPV ワクチンを接種するための時間は確保しやすい。
 かなりそう思う
 そう思う
 どちらでもない
 そう思わない
 まったくそう思わない
35. HPV ワクチンの接種を行っている医療施設を見つけるのは容易である。
 かなりそう思う
 そう思う
 どちらでもない
 そう思わない
 まったくそう思わない
36. 自費で任意接種を受けさせることが経済的に可能である
(1回の接種につき1万5千円～4万円程度を3回)。
 かなりそう思う
 そう思う

- どちらでもない
 - そう思わない
 - まったくそう思わない
37. 男子を対象とした HPV ワクチンの定期接種の制度があるべきだ。
- かなりそう思う
 - そう思う
 - どちらでもない
 - そう思わない
 - まったくそう思わない
38. HPV ワクチン接種は、接種した人の周りの人が感染する機会を減少させることができる
- かなりそう思う
 - そう思う
 - どちらでもない
 - そう思わない
 - まったくそう思わない
39. 10 歳代の女子が HPV ワクチンを接種せずとも、20 歳以降に子宮頸がん検診を受診すれば十分、子宮頸がんを予防できる。
- かなりそう思う
 - そう思う
 - どちらでもない
 - そう思わない
 - まったくそう思わない
40. 男性は HPV ワクチンを接種しなくてもよい。
- かなりそう思う
 - そう思う
 - どちらでもない
 - そう思わない
 - まったくそう思わない
41. まわりの人が HPV ワクチンを接種するならば、自分も接種してよい。
- かなりそう思う
 - そう思う
 - どちらでもない
 - そう思わない
 - まったくそう思わない
42. HPV ワクチンに関する正しい情報を入手することは簡単である。
- かなりそう思う
 - そう思う
 - どちらでもない
 - そう思わない
 - まったくそう思わない
43. HPV ワクチン接種が必要な理由を理解することは簡単である。
- かなりそう思う
 - そう思う
 - どちらでもない
 - そう思わない
 - まったくそう思わない
44. HPV ワクチンについて正しく把握できている。
- かなりそう思う
 - そう思う
 - どちらでもない

- そう思わない
 - まったくそう思わない
 - 45. HPV ワクチンの接種は、それが予防する子宮頸がんよりも、もっと深刻な病気やアレルギーを引き起こす。
 - かなりそう思う
 - そう思う
 - どちらでもない
 - そう思わない
 - まったくそう思わない
 - 46. 行政の HPV ワクチンに関する情報は信頼できない。
 - かなりそう思う
 - そう思う
 - どちらでもない
 - そう思わない
 - まったくそう思わない
 - 47. HPV ワクチンには、毒性のある物質が含まれている。
 - かなりそう思う
 - そう思う
 - どちらでもない
 - そう思わない
 - まったくそう思わない
- Q-13** 他のワクチンに対するあなたの意向をおたずねします。
- 48. あなたは COVID-19 ワクチンを接種しましたか？
 - 接種した
 - 接種しなかった
 - アレルギー等、医学的な理由で接種できなかった
 - 49. あなたは昨シーズンまたは今シーズンにインフルエンザワクチンを接種しました？
 - 接種した
 - 接種しなかった
 - おぼえていない
 - アレルギー等、医学的な理由で接種できなかった